

プログラム近況報告

カンボジア王国 ポニャー・ルウ地域開発プログラム (CAM-182126)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



子どもたちは学校が大好きです。地域では、子どもたち全員が、学校に入学し、退学する子どもの割合は5%以下です。学校には簡易トイレやポンプ式井戸、浄水フィルターなどが備えられ、学校環境が改善できています

プロジェクト活動で著しい成果が見られ、 地域の人々が参加して、次期5年計画を策定しました

2013年度、ポニャー・ルウ地域開発プログラム(以下、ADP)はプログラムの第1段階の最後の年を迎えました。保健衛生、水と衛生、食料安全保障の各プロジェクトは、各分野で目覚ましい成果をあげています。将来、地域の人々が活動を担っていけるよう、約50の地域の小グループの活動強化が行われています。それぞれのグループではメンバーが積み立てを行っており、この額が増えることによって、今後、活動に必要な資金を自分たちで準備できるようになることが期待されています。

これら各プロジェクト活動と並行し、昨年度に行った過去5年間のプログラム活動の評価結果を踏まえて、次の5年間の活動計画を策定しました。策定にあたっては子ども、青年たちを含む地域の住民、政府関係者が参加し、議論をすることを重視しました。ADPの開発計画や目標に対する住民たちの理解も深まり、人々は、地域社会において分かち合い、支え合っていく仕組みづくりに邁進しています。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとも

に喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

ポニー・ルウADPを代表して、チャイルド・スポンサーの皆さまの温かいご支援に心から感謝申し上げます。ご支援により、今年度も地域の人々とともに協力して活動を進めることができました。地域の人々の生活に変化がもたらされており、特に子どもたちはより健康になり、安心して生活できるようになっています。困難はありますが、ご支援は日照りの中に降る恵みの雨です。スポンサーの皆さまの継続的なご支援に、私たちは励まされています。心から感謝いたします。

収入向上の活動を通して、経済的に余裕ができた家族は、子どもたちを毎日学校に通わせることができるようになりました。子どもたちの食事も、量、質ともに大幅に改善され、衛生的な水が利用できるようになり、下痢やデング熱、そのほか水に関係する病気が減少し、子どもたちの健康も改善されてきています。

ユース・クラブは、子どもの権利についての啓発、家庭内暴力(DV)の予防、衛生改善推進など、地域の問題に自らも取り組んでおり、私たちの夢は彼らが次世代のリーダーとなることです。今後数年のうちに、これまで行ってきた活動の多くを地域住民自らが担っていけるよう、私たちは活動を続けていきます。これからもポニー・ルウADPの子どもたち、地域の人々のために、引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

プラク・ソエウン
(ポニー・ルウADPマネージャー)



水と衛生プロジェクト

本年度は、4村を対象に、屋外での排泄習慣を根絶することを目指した衛生活動を行いました。これは、地域ごとに住民が自らの生活習慣を振り返り、問題を評価・分析しつつ進められた活動で、トイレの付設だけでなく、手洗いや安全な飲料水、適切な排便習慣などの啓発と実践も含まれました。その結果、村の634世帯の99%が簡易トイレを備え、家庭で適切な排泄処理が行われるようになり、対象の4村す

べてで野外排泄根絶の宣言をすることができました。学校でも衛生環境が整備されています。小学校にはトイレが整備され、生徒たちはトイレを使い、使用後は石けんで手洗いをするよう教えられました。安全な飲用水を飲める環境も整備されてきています。衛生教育に真剣に取り組むようになった学校では、教室も定期的に清掃されて、良い学習環境が保たれています。



子どもたちが手洗いを実践しています



村の清掃キャンペーンに参加するユース・グループの青年たち

保健衛生プロジェクト

プロジェクトでは、村の保健ボランティア・グループと保健センター、保健行政区の緊密な協力のもと、幅広い働きをしました。多くの人々が医療機関のサービスを利用するようになり、子どもが病気になるとまず保健センターに連れて行くようになりました。子どもの食事と栄養、予防接種についても、親たちは以前よりも注意を払うようになっています。

人々の間で安全な出産についての理解が深まり、助産師など医療専門職の立会いのもとでの出産が増え、今年度は283人が助産師のいる地域の保健センターで出産しました。また、多くの妊婦が、産前・産後の定期健診のために保健センターに通うようになりました。保健センターでは、593人の妊婦と産後の女性が鉄葉酸剤90錠を受け取り、151人

の妊婦は保健センターで少なくとも2回の破傷風ワクチンの投与を受けました。また、生後0～12カ月の乳児全員357人がワクチン接種を受けています。多くの母親が、出産後初期の母乳育児の重要性を理解し、母乳育児を実践、母子ともに健康に暮らせる環境がつくられています。



健康診断を受けるチャイルド

食料安全保障プロジェクト

収入向上のための活動を通じて地域住民の貯蓄額は徐々に増加しています。以前は、地域外の高利貸しから高金利で借金せざるを得ませんでした。地域の貯蓄グループのメンバーは積み立てを行い、今ではそのグループ貯蓄から、より低利で貸付を受けることができるようになりました。人々はこの貸付によって、小規模ビジネスを始めることもできます。

鶏を売ってより多くの収入を得ている養鶏業者は156に上ります。またプロジェクトの紹介で、新しい米の栽培技術も導入され、米の生産量も増加しました。

これらの結果、家庭の収入も大幅に改善され地域経済も活性化してきました。人々は、子どもたちの教育費や日常にかかる出費を自らの力で支えることができるようになり、家族と子どもたちの毎日の食事は、量だけでなく栄養面でも改善されるなど、人々の生活が徐々によくなってきています。



貯蓄グループのメンバーたち。貯蓄グループでは、監査を実施し、グループの資金が公正に運営されていることを確認しました

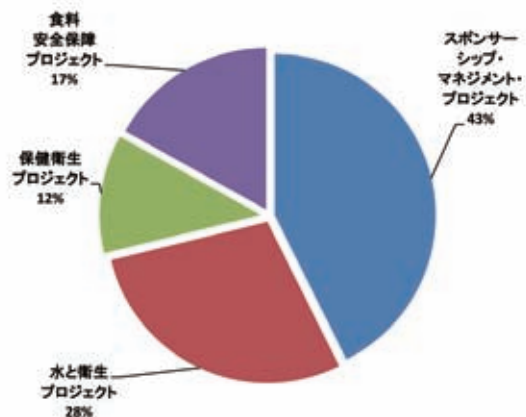
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

CAM-182126 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	34,700,388
当期支援額	34,700,388
前期繰越金	2,425,999
プログラム支援額合計	37,126,387
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	14,909,982
水と衛生プロジェクト	9,984,168
保健衛生プロジェクト	4,151,768
食料安全保障プロジェクト	5,920,243
プログラム支出額合計	34,966,161
次期繰越額	2,160,226

支援分野別内訳(CAM-182126)



スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

子どもたちの健康や教育に関する分野のみならず、家庭での身の安全にかかわる分野においても、明確な変化がもたされています。その一つは、子どもの権利や教育の価値について、大人たちの理解が進み、その結果、家庭内暴力が減少したことです。

子どもたちも、子ども会に参加し、「安全」についての体験学習を通じ、家庭内での暴力がある場合の対処の仕方学びました。



学校の休み時間に「書き方」の練習をしている子どもたち

チャイルド・ストーリー

プロジェクトで与えられた機会を通して大きく成長し、 高校生リーダーとして活動しています

18歳になるソフェア君は11年生です。ユース・クラブの活動を通して、彼の学校の成績は大幅に向上しました。「ぼくは、これまで、収入が少ない親の手伝いでとても忙しく、勉強に集中できなかったので、学校の成績も悪かったです」とソフェア君は振り返ります。プロジェクトではソフェア君の村で、様々な訓練やワークショップを行いました。そのテーマは、子どもの権利、子どもの保護、開発のためのコミュニケーション、アドボカシー活動、教育の重要性、衛生と健康など多岐にわたります。また、ソフェア君は、全国ユース・フォーラムやコミュニン協議会などにも出席する機会を与えられました。「ぼくは、それまで知らなかった多くのことを知り、村のほかの青年たちに呼びかけて、ユース・クラブを結成しました。そしてぼくは、ユース・クラブのリーダーに選ばれたのです。スポン



ソフェア君はユース・クラブのリーダーに選ばれました

サーの皆さまのご支援と励ましのおかげで、このように高校生リーダーになることができました」さらに、ソフェア君は続けます。

「自分の勉強や家での両親の手伝いに加えて、クラブのメンバーに英語と数学を教えています。保健衛生の向上のための村の清掃キャンペーンを中心に進め、子どもの出生証明書取得や子どもの権利の重要性についての啓発活動も行いました。ほかの人を助けたり教えたりするという目標ができて、さらに勉強をするようになり、自分の生活も見直して、ぼく自身が多くのことを得ることができました」

と彼は語ります。

最後にソフェア君は、ほほえみながらこう語りました。「ぼくの夢は、子どもたちが皆、教育と自分たちの権利の重要性を理解して、地域の活動に積極的に参加できるようになることです」

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

カンボジア王国 トモ・プオ地域開発プログラム(CAM-195745)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



子どもたちは 子どもクラブが大好きです

トモ・プオ地域開発プログラム(以下、ADP)は、地域で活動をする上でパートナーとなる住民組織や政府機関が強化されることにより、子どもたちの健やかな成長が持続的に保障される地域づくりを目標にし、2011年より活動を行っています。

チャイルド・スポンサーシップ活動では、地域ボランティアが主体となって子どもクラブを推進しています。子どもクラブでは、絵や文字を書いたり、物語を聞いたり、また、楽しみながら参加することができるように、ゲームなど遊びの要素を取り入れて、人間関係についても学びます。これらの活動を通して子どもたちは、自らの持つ能力を知るとともに、他者との関係構築の方法を学んでいます。

子どもクラブが大好きな、11歳のカニヤちゃんは言います。「友だちと一緒にゲームをしたり、おやつを食べたりして、とても楽しかったわ」

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとともに喜んでいただけますと幸いに存じます。皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

トモ・プロADPより心からのご挨拶を申し上げます。

皆さまのご支援により、私たちの活動も無事2年目を終え、子どもたちを含む地域住民の生活にも徐々に変化が表れてきています。初年度から行っている地域組織化プロジェクトを通して、貧しい人々を中心に形成された住民組織は、貯蓄活動や小規模ビジネスを拡大したり、住民への教育や保健についての啓発にも取り組んでいます。今年度はその基礎の上に教育プロジェクトを立ち上げ、学校を支える仕組みづくりや教育環境の改善に努めました。子どもたちが健やかに成長できる地域づくりのために、ご支援を引き続きお願いいたします。

ンヘブ・ポウラ (トモ・プロADPマネージャー)



地域組織化プロジェクト

衛生的な生活習慣を普及させるため、青年グループと連携し、村における清掃デー、手洗い・爪切りキャンペーンなどの活動を企画・実施しました。その結果、子どもたちだけでなく、地域の大人たちにも保健衛生に対する認識が深まりました。特に、親たちは、子どもが毎日衛生的な習慣を励行することによって、健康的に暮らせることを喜んでいて、青年グループメンバーのディーナさん(22歳)は言います。「地域社会と子どもたちが、積極的に衛生習慣やその啓発活動に参加しているのを見て、とても嬉しく思います。保健衛生の重要性を理解した結果、健康状態が着実に改善しているのを実感しています」



学校では口腔衛生イベントが行われ、子どもたちは歯磨きについて学びました

子どもたちに、衛生的な生活習慣として洗髪を指導しています。子どもたちの保健衛生の推進のため、青年グループも協力してくれています

地域では、お互いに協力し合うことの重要性への理解が深まり、住民組織の数は昨年の13から23へ、住民組織に参加する住民も526人から906人に増加しました。

住民組織のリーダーの一人、サリーさんはこう話します。「村で定例会合を開き、住民組織の概念やグループで貯蓄をして支え合う重要性について、住民に広めていけることを喜んでいて、新しく加わったメンバーも貯蓄をするようになり、活動に必要な額が積み立てられつつあります」



貯蓄グループの定例会合。人々は、グループで支え合うことを学び、住民組織に参加する人数も増加しています

教育プロジェクト

今年度より教育プロジェクトが開始されました。その目標の一つとして、小学校6年生の段階で、その年齢までに必要な読み書きの力が身につく、読書の習慣が定着することを目指しました。プロジェクトでは、まず17の小学校の教師95人と教育関係者に研修を行いました。研修を通して、生徒たちの読み書き能力の評価方法を学んだ教師たちは、子どもたちに適切な指導を行うことができるようになりました。今では、子どもたちが、図書室や教室、家で熱心に読書する姿が見られるようになり、読書の習慣が定着しつつあります。

6年生のスレイリク君は語ります。「学校だけでなく、家でも友だちと一緒に本を読むのは楽しいです。先生や両親も、ぼくが本を読むようにいつも励ましてくれます」



地域の住民を対象に行った野菜栽培の講習会



野菜栽培の研修では、実際に苗床を使って学びました



研修を受けた教師によって、生徒たちの読み書き能力は客観的に評価されるようになり、子どもたちに適切な指導をすることができるようになりました



子どもたちは、休み時間に外で遊ぶだけでなく、読書も楽しむようになりました

教育の普及には、子どもたちの家庭が安定した収入を得ることが不可欠な要素です。プロジェクトでは、この収入の向上と安定のため、野菜栽培を推奨し、関連する技術研修を地域の人々に行いました。成功事例を知ることで、人々の関心が高まりつつあり、昨年度19カ所だった家庭菜園に、今年は新たに10カ所が加わりました。野菜栽培を通して家庭の収入が増加し、子どもたちの教育の費用を負担できる家庭が増えています。住民組織のリーダーの一人、ポウさんは語ります。「私たちが野菜を育てて売った収入で、3人の子どもの学校に通う費用をまかなえるようになりました。さらに収入は、家庭で必要なものを購入する資金にもなっています」

会計報告

収支計算書

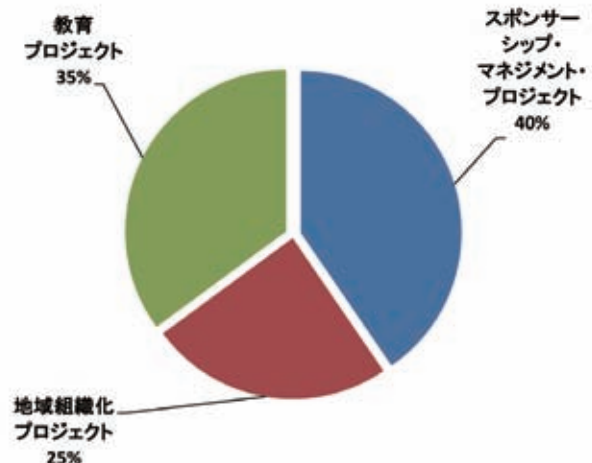
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	CAM-195745 (単位: 円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	30,581,935
当期支援額	30,581,935
前期繰越金	1,003,941
プログラム支援額合計	31,585,876

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	13,590,614
地域組織化プロジェクト	8,217,964
教育プロジェクト	11,789,279

プログラム支出額合計	33,597,857
次期繰越額	-2,011,981

支援分野別内訳(CAM-195745)



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



チャイルド・スポンサーシップの様々な活動に参加する子どもたち



地域の住民や行政関係者、地域ボランティアに、スポンサーシップ基礎研修が実施されました

今年度は、地域の住民や、主要な働きをする団体やグループ、子どもたちのために働く地域ボランティアに対して、スポンサーシップ基礎研修を実施しました。これは、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムについて、関係者の理解を深め、積極的にプロジェクトの活動に参加、協力をしてもらうことが目的です。

研修に参加した23歳になるサイリーさんは言います。「当初、大人たちの中には、なぜ子どもたちが日本のスポンサーに手紙を書くのかがしっかりと理解できていない者もいました。しかし、研修を受けたことにより、自分たちの子どもがどこかよそへ連れて行かれるのではなく、自分たちの地域で健やかに育つことを支えてくれるプログラムに、日本のスポンサーがご支援くださっていることをよく理解することができるようになりました」



子どもクラブに新しい手洗い設備ができて喜ぶ子どもたち。子どもクラブは、地域のボランティアが主体となって活動を進めています

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

カンボジア王国 ボレイ・チュルサール地域開発プログラム(CAM-198338)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



「私が参加する母親グループは、ワールド・ビジョンのスタッフと協力して、子どもたちに手洗いの指導をしています。村の子どもたちの健康のために、手洗いは重要です。そのような大切な役割を担うことができ私はとてもうれしいです」と語るリンさん(42歳)

地域のこれまでの課題を振り返り、 未来に向けて歩み始めました

青年や子どもたちが、活動の計画に参加し、自分たちの意見を述べることを奨励しています。青年フォーラムで、青年たちが政府関係者に村の問題点について自分たちの意見を述べ、それらの課題への取り組みが村の開発計画の中に組み込まれることになりました



「ワールド・ビジョンのスタッフと協力して青年グループがフォーラムを開催しました。地方政府の人たちに村の問題や、私たちの考えを話す機会が与えられました。またとない機会です、とても嬉しかったです」と語る青年グループメンバー

ボレイ・チュルサール地域開発プログラム(以下、ADP)は、今年度より地域の9カ村で活動を開始しました。今年度は、対象地域の特に最も弱い立場にある子どもたちが健やかに成長できる地域づくりを進めるため、地域組織化とチャイルド・スポンサーシップ・マネジメントの2つのプロジェクトを行いました。

活動開始から間もない地域で、地域の住民や政府と良好な関係を築くため、スタッフは数多くの家庭訪問や話し合いを行い、地域の問題を共有し、子どもたちの健やかな成長のためにできることをともに考えました。その結果、16人の村落保健支援グループのメンバーが保健センターで訓練を受け、学んだ知識を使って地域の住民や子どもたちに啓発活動をするようになったほか、地域住民や青年グループを中心に35以上の自主的な地域改善活動が始められています。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとものに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



地域組織化プロジェクト

貧しい家庭の子どもや家族の経済状況の改善に目を向けました

地域組織化プロジェクトの中心となる活動の一つが、地域内の小グループによる貯蓄推進です。グループで少額の積み立てを行い、必要に応じてメンバーが低利で借りることができるようにする仕組みです。貧しい人々の中には、手にした現金をすぐに使ってしまう、緊急時に高利で借金をし、その返済のためにさらに生活が困窮する、といった悪循環が多くみられるためです。



学校関係者とADPが協力して企画した国際子どもの日記念行事の様子

今年度、対象地域の村の一つで貯蓄グループの活動が始まりました。貯蓄グループのメンバーは、グループから低金利でお金を借り、小さなビジネスを立ち上げることで、肥料を購入したり、子どもたちの学費や医療費をまかなえるようになることを目標としています。「ワールド・ビジョンが進めている貯蓄グループでの学びを通して、家族の暮らしを良くするためにお金を貯めることの意味がよく分かりました。特に変わったのは私のお金に対する考え方です。将来に希望を持って貯蓄をし、子どもたちが勉強を続けられるようにしたいです」とメンバーの一人、クロムさん(40歳)は話します。



ADPマネージャーからのごあいさつ

ボレイ・チュルサールADPを代表して、子どもたちとその家族や地域の人々へのご支援に心より感謝申し上げます。活動を通して、子どもたちの学習環境、保護者の教育や衛生習慣に対する意識、地域の小グループによる貯蓄活動などの分野で様々な変化が生まれています。

次年度も、これらの成果を踏まえて、子どもたちの健やかな成長が実現される地域づくりに向けて、さらなる変化を地域にもたらすべく活動を続けてまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

レイ シネット

(ボレイ・チュルサールADPマネージャー)



ワールド・ビジョンが各国政府に対して、子どもたちを救う取り組みの拡充を求める「Child Health Now-アクション! 救えるはずの命のために」のキャンペーンイベントで、地域の子どもたちとアクション!として手を挙げポーズをとるADPマネージャー



貯蓄グループの集まりで話し合うメンバーたち



そのほか、学校の教員と協力し、国際子どもの日の記念行事を企画しました。子どもたち1,090人と、地域住民の有志からなる学校支援委員会メンバー30人、合わせて1,120人が参加しました。この記念行事では、児童虐待の予防、子どもの権利や子どもの保護についての啓発を行いました。

また、地元自治体や警察と協力し、出生証明書問題検討会議を開催しました。これは、地域の保護者の多くが無関心や情報不足により、子どもの出生時に届け出を行っておらず、チャイルドとして登録した子どもたちの中で、出生登録をしている子どもは約20%でしたが、この会議や啓発活動の結果、約47%に向上しました。早期に地域の子どもたちすべての出生登録がなされるよう働きかけていきます。

村落健康支援グループや保健センターと協力して行われた保健・衛生についての啓発活動の様子。1,300人の子どもたちが参加し、保健・衛生についての理解を深めました

会計報告

収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

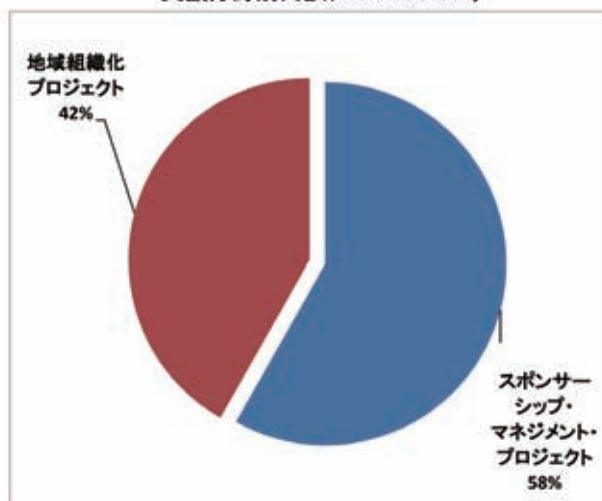
	CAM-198338 (単位: 円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	12,055,403
当期支援額	12,055,403
前期繰越金	221,854
プログラム支援額合計	12,277,257

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	6,647,807
地域組織化プロジェクト	4,774,543

プログラム支出額合計	11,422,350
次期繰越額	854,907

事業開始年度につきスポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトの占める割合が高くなっています。

支援分野別内訳(CAM-198338)



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

活動を開始するにあたり、今年度は、チャイルドやその家族、また地域の人々に対して、スポンサーシップの活動とその意義について研修や話し合いを行いました。年度の終わりに開催した振り返りの集まりには、9つの村から225人の子どもたちと、180人の地域住民が参加しました。小グループに分かれての討議では、多くの地域住民や子どもたちから、「子どもたちの暮らしを改善するADPの活動は、単に支援を受けるのではなく、地域をよくしたいという意志をもって、様々な活動に参加することが重要だということがわかりました」という声が聞かれました。



「スポンサーシップはとても楽しい活動で、私の村の開発のために大事なことだよ」と、子どもグループの活動に参加した一人が話してくれました



「ワールド・ビジョンが開いているスポンサーシップのオリエンテーションに行けて、とても嬉しかったです。だってスポンサーシップはとても楽しい活動だからね」と語る子どもグループのメンバー

子どもグループのリーダーとして活動に積極的に参加しています

ティヴェア君(11歳)は、中学校に通う7年生です。両親は貧しい農民で、日々畑仕事に忙しいため、次男の彼は両親を助け、妹たちの模範になることが期待されていました。しかし、彼は両親の言うことをあまり聞かず、手伝いや勉強も得意ではありませんでした。また友だちを作るのも苦手だったため、父親のフィーブさんは、もっと積極的になってほしいと願いワールド・ビジョンの活動への参加を勧めました。最初は興味を示さなかった彼も、村で様々な活動が行われているのを知り、またワールド・ビジョンのスタッフが何度も声をかけ、子どもグループへの参加を勧めたことで、活動に参加するようになりました。このことにより、ティヴェア君はとても活発になり、今ではグループのリーダーとして活躍しています。子どもの権利、家庭内暴力、保健・衛生習慣などについて、地域の大人や子どもに伝えているほか、学校の成績も良くなりました。

ティヴェア君は、活動に参加した感想をこう話します。「ぼくは、自分が変わることができて、とても嬉しいです。グループ活動を通して、ぼくは新しいことを学んだ

り、人との関係を築いたり、自分を磨けるようになりました。そのことをほかの子どもたちにも伝えていきます。このようなチャンスをくれたチャイルド・スポンサーとワールド・ビジョンにとっても感謝しています。その励ましと愛情がなければ、ぼくは自分を変えることはできなかったと思います。将来は、お医者さんになりたいです。しっかり勉強して、両親や家族を養うために働きたいです」

母親のチュロンさんも「息子が変わる手助けをしてくださり、心から感謝しています。私は子どもグループの活動が、私の村でこれからもずっと続いていくようにと願っています」と話してくれました。



村の清掃キャンペーンに参加するティヴェア君(前列右から2番目)。子どもたちが企画し、村をきれいにするための取り組みが行われ、子どもたちは大いに張り切りました

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。